

東日本大震災と拠点活動について

このたびの東日本大震災でお亡くなりになった方々に心から哀悼の意を表するとともに、行方不明の人々の安否が一刻も早く確認されることをお祈り申し上げます。原発事故による放射性物質の流出は、福島県はもとより日本全体に深刻な危機をもたらしています。一日も早く終息し、再建・復興への動きが本格化することを心から願っています。

東北地域の高等教育機関、センターは、私ども東北大学高等教育開発推進センターと同様、大きな打撃を受け、完全には回復していません。お見舞い申し上げ、一日も早い復旧と活動を再開できるよう、ともに努力したいと思えます。

また、今も続く原発事故への対応をはじめ、救助・支援・復興活動に携わってくださっている国内外の方々に篤くお礼申し上げます。国外からは、オーストラリア・シドニー大学、カナダ・プリティッシュ・コロンビア大学、ダルハウジー大学、オンタリオ質保証審議会、アメリカ大学院協会、カリフォルニア大学バークレー校、コロラド大学の皆様から、励ましとお見舞いのメールを頂きました。国内からは、愛媛大学、桜美林大学、金沢大学、九州大学、国立教育政策研究所、首都大学東京、筑波大学、帝京大学、東京大学、同志社大学、広島大学、山形大学、立教大学の教員の皆様から、励ましとお見舞いの連絡を頂きました。多くの方々から寄せられた励ましに感謝申し上げます。とりわけ、「国際連携を活用した世界水準の大学教員養成プログラム」の一環として、東北大学の院生を University Teaching Certificate Program に引き受けて頂いたメルボルン大学のリチャード・ジェームス氏からは、受講料相当分の寄付の申し出を頂きました。また、甲南大学・美馬久美子氏からは、阪神大震災の復興記録等を送って頂きました。改めて、ご厚情に感謝申し上げます。

東北大学高等教育開発推進センターは、研究棟の6階部分が半壊し、全棟が立ち入り禁止状態になっていますが、幸いなことに、教職員に被害はありませんでした。メルボルン大学のプログラム参加学生が東京に帰着したのは震災2日後の3月13日であり、東京も地震直後の混乱下にありましたが、東北大学東京分室の全面的な協力を頂き、全員を無事に母国ないし自宅に送り届けることが出来ました。学生の保護にご協力頂いた国立オリンピック記念青少年総合センター、大学セミナーハウスには、とりわけ深く感謝いたします。

東北大学高等教育開発推進センターは教育関係共同利用拠点として1年目の事業をほぼ終了し、2年目の活動の準備を進めていた矢先の震災でした。シンポジウムや外部評価など予定していたいくつかの事業は中止せざるを得ませんでした。現在、隣接する講義棟に臨時の大学教育支援センター事務室を発足させ、今年度行った各種の調査の分析、ブックレットの出版、PDプログラムの開発・改善に着手しています。施設・設備に大きなダメージを受けてはいますが、10月には派遣プログラムも再開し、当初予定していた事業を推進する準備を進めています。

このたびの震災は単なる天災ではなく、国土と日本社会全体の存立にかかわる大災害であり、それを克服するための人間の在り方が問われていると強く認識せざるをえません。当然、大学教育の在り方も問われています。教育関係共同利用拠点の活動は、こうした大学教育の課題に応えるものであり、今後の拠点活動の中でも追求していきたいと私どもは考えています。復興には時間と資源が必要であり、私どもは全身全霊を込めて努力してまいります。今後とも皆様の支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

2011年4月7日

東北大学高等教育開発推進センター長 木島明博
大学教育支援センター長 羽田貴史